



みなこ館

地域とつながる学生寮

心強く、とても勇気づけられます。

この春も、みなこ館には新入生が入りました。現在12人の生徒が暮らしています。鹿児島県や愛媛県からの下宿生もいて、寮の先輩が相談に乗ったり、みなこ館のルールを伝えたり。その様子に松嶋さんも心が温まるそうです。寮の宿直は、これまで松嶋

さんが毎日担当していました。この春からは芸北地域の女性4人が手伝うようになり、地元の人が「みなこ館で使つて」と野菜などを届けてくれることもあるそうです。地域ならではのつながりに、気持ちがときめきます。芸北地域は人口減が心配されています。でも、うれしいこともあります。みなこ館で

の出会いはず。松嶋さんやいろんな地域の生徒たち、地元の人が巡り合い、町に活力が生まれていくように感じます。

私は北広島町に移り住むまで「町」への思いはどこか人ごとのようでした。最近はおんなの手で「町」が形作られているんだと感じる瞬間があります。「よそ者」の私を地域の人たちが温かく受け止めてくれている気がするのです。

「町」のために私も何かできることがあるのではないかと。まちづくりに関われる余白みたいなものを感じることもあります。そう思うのも、芸北地域の魅力なのかもしれません。

(農業・狩猟見習い) 北広島町

私が暮らす広島県北広島町には加計高芸北分校があり、家の遠い生徒もいるため、下宿する男子寮と女子寮が設けられ、このうち女子寮の「みなこ館」は昨年春にできました。寮の名前は、渡辺美那子さんにちなんでいます。1996年に芸北分校へ赴任した先生。2年前に亡くなりましたが、「分校の発展のために」と寄付金を贈られたそうです。みなこ館のハウスマスターは、熊本県から移住した地域おこし協力隊員の松嶋良さん。生徒の過ごしやすい「家」にしたいのだそうです。松嶋さんは27歳で私の一つ年上。話し方は柔らかく落ち着いた雰囲気です。下宿生から頼りにされています。私も移住組なので、松嶋さんの頑張る姿は



みなこ館のハウスマスターを務める松嶋さん。この春も下宿生を温かく迎えた

これまでの連載は中国新聞デジタルで

